

泉大津市公共施設適正配置基本計画 第1回検討委員会 議事録

日 時	2025年9月2日(火) 10時00分～11時30分
場 所	泉大津市役所職員会館2階 娯楽室
出 席 者	○立命館大学：古阪秀三委員 ○関西大学：岡絵理子委員 ○和歌山大学：佐久間康富委員 ○池田泉州銀行：岡田知也委員 ○公募市民代表：長田晋治委員 ○公募利用団体代表：矢野千寿委員 ○公募市民代表：森田幸雄委員（欠席）
事 務 局	○泉大津市：虎間総務部長、細見資産活用課長、辻川課長補佐、稻田総括主査 ○ランドブレイン(株)：山田、島村
会 議 次 第	1. 開会あいさつ 2. 委員紹介 3. 委員長・副委員長選出 4. 議題 (1) 泉大津市公共施設適正配置基本計画（第3期）策定について (2) 泉大津市公共施設を取り巻く現状について (3) 泉大津市公共施設に関する住民意向の把握について 5. その他 (1) 次回委員会の日程調整 6. 閉会
会 議 資 料	1 泉大津市公共施設適正配置基本計画検討委員会 設置要綱 2 " 委員名簿 3 " 配席図 4 資料1 泉大津市公共施設適正配置基本計画（第3期）策定について 5 資料2 泉大津市公共施設を取り巻く現状について 6 資料3 泉大津市公共施設に関する住民意向の把握について 7 資料4 アンケート調査票（案） 8 参考資料1 泉大津市公共施設等適正配置基本計画 9 参考資料2 泉大津市公共施設等適正配置基本計画【第2期】

議 事

【1. 開会あいさつ】

事務局	定刻となりましたので、只今から、第1回泉大津市公共施設適正配置基本計画検討委員会を開催させていただきます。皆様方におかれましては、ご多用のところ、本委員会にご出席いただきまして厚くお礼申し上げます。本日は委員7名のうち6名のご出席でございます。泉大
-----	--

	津市公共施設適正配置基本計画検討委員会設置要綱第5条第2項の規定により、本委員会が成立しておりますことをご報告いたします。また、会議の記録を作成するために録音及び写真撮影をさせていただきますのでご了承ください。なお、本委員会は公開とさせていただいております。本日は5名の傍聴希望者があり、只今から入室を許可しますのでご承知ください。傍聴の方へ注意事項を申し上げます。会議場内では写真撮影、録画や録音、発言、賛否表現はできません。また、会議場の秩序を乱し、会議の支障となる行為は禁止します。なお、配布資料は会議終了後、回収いたします。よろしくお願ひします。
事務局	それでは、次第の1、開会あいさつに移ります。本委員会の開催に当たりまして、総務部長の虎間よりご挨拶を申し上げます。
総務部長	皆様、おはようございます。総務部長の虎間でございます。泉大津市公共施設適正配置基本計画検討委員会の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。各委員におかれましては、お忙しい中、お集まり頂き誠に有難うございます。また、平素より本市市制運営に関しまして、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。本日は、泉大津市公共施設適正配置基本計画検討委員会の委員をお引き受けいただき、重ねてお礼申し上げます。さて、本市におきましては、公共サービスを提供する場、また、市民皆様の活動の場として、公共施設の整備を進めてきたところでございますが、これらの多くは老朽化が進んでおり、施設の整備も十分出来ていないから、様々な課題が生じていたところでございます。これらの課題解決に向け、平成26年12月の本市の公共施設における基本理念及び5つの基本方針を示す「泉大津市公共施設適正配置基本方針」を策定し、その基本理念の実現に向けて平成29年6月に「泉大津市公共施設適正配置基本計画」を策定しました。同計画は、令和3年度末に第1期を終え、令和4年～8年の公共施設適正配置の推進を図るため基本計画【第2期】を策定し、現在はこの期の4年目にあたります。この期以降、令和9年度（2027）から令和21年度（2039）までを第3期、大幅な見直しの可能性がある期間として、今般、委員の皆さまの専門的な視点や、市民・利用者の視点から同計画の見直しについてご意見、ご助言を頂ければと思います。本日より、約1年半の長期間となりますが、どうぞよろしくお願ひいたします。
事務局	それでは、本日の資料、確認をさせていただきます。本日配布しております資料は、クリップ留めで「会議次第」、「委員会設置要綱及び名簿」、「配席図」、カラー刷りで「資料1、2、3」、「資料4、アンケート調査票（案）」でございます。また、参考資料としまして、「参考資料1 泉大津市公共施設適正配置基本計画」、「参考資料2 泉大津市公共施設適正配置基本計画【第2期】」でございます。お手

	元にございますでしょうか。
--	---------------

【2. 委員紹介】

事務局	続きまして、次第の 2、委員紹介について、でございます。本来であれば、皆様方それぞれに委嘱状を交付させていただくことが本意ではございますが、この度は事前にお手元にお配りしておりますので、ご了承くださいますようお願ひいたします。それでは、委員の皆様方のご紹介をさせていただきます。お名前をお呼びいたしますので、本委員会参加にあたっての思いなど、一言ずつご挨拶をお願いします。初めに、立命館大学 OIC 総合研究機構 客員教授 古阪秀三 様。
委員	さまざまな活動に取り組んでおり、昨日は東京、明日も別の場所と日々移動が続いております。泉大津のように多様な組織が努力を重ねようとしていることを心強く感じており、国交省も含め、こうした取組については、私自身も支援すると同時に必要な指摘も行っているところです。そのような流れの中で、今回、ここでも皆さんと共に学びながら、泉大津の今後をより良い方向へ進めていければと考えています。本日、電車で訪れる途中、この地域は非常に気持ちの良い場所だと感じました。また、空港へのアクセスも良く、海外に行くにも非常に便利な立地だと思います。私自身、海外については長く研究に携わり、協力してきた経緯もあります。こうした国際的な視点や、今回の先生方の業務とも連携しながら、より面白く、魅力ある泉大津の流れを作つていければと思います。以上、よろしくお願ひいたします。
事務局	続きまして、関西大学環境都市工学部 教授 岡絵理子 様。
委員	関西大学の岡と申します。よろしくお願ひいたします。私、泉大津市のお仕事は初めてさせていただきます。大阪府内の仕事などをしていくと、北側はどんどん人口も増えるが、南の方はそうではなく困っているという話がよく出てきますが、最近は、どうも南の方からよくお声がかかっております。南の方に行くと、とても自然も豊かで、歴史もあり楽しいところが多いので、これを上手く活用して、これから伸びていって欲しいなと思っていますので、今回も頑張りたいと思います。よろしくお願ひいたします。
事務局	続きまして、和歌山大学システム工学部 教授 佐久間康富 様。
委員	和歌山大学の佐久間と申します。よろしくお願ひします。私は和歌山から南大阪にかけて、都市計画やまちづくりの分野でいくつかの自治体とご縁をいたいてきましたが、泉大津さんとは今回が初めてです。学生の卒業論文や修士論文で近隣の自治体には関わることもありましたが、泉大津はサザンに乗って通り過ぎるばかりで、ご縁がありませんでしたが、今回お声をかけていただき、とても楽しみにしています。今、岡先生からもお話をありがとうございましたが、人口減少の時代にあって、ど

	の自治体も「これからどう進めていくか」という課題を抱えていると思います。今回の公共施設の適正配置も、人口減少の中で市民の暮らしと施設のあり方をどう展望を持って考えていくかという、大事なテーマだと感じています。皆さんと有意義な議論ができるることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願ひいたします。
事務局	続きまして、池田泉州銀行 地域共創イノベーション部部長 岡田知也 様。
委員	池田泉州銀行の岡田と申します。よろしくお願ひします。私どもは、オープンイノベーションや地域活性化に関わる取組を進めています。銀行の紹介で申しますと、20を超える自治体と産業振興や地域活性化の連携協定を結んでおり、泉大津市とも連携関係にあります。その中で様々な施策を共同で進めており、今回もそのご縁でお招きいただいたのだと思います。地域共創イノベーション部の業務では、ベンチャー企業やスタートアップ企業の支援も行っています。技術を持つ若い企業と自治体をつなぎ、新しい価値を生み出す活動をしています。また、昨年3月には「池田泉州エリアサポート」という会社を新たに立ち上げました。地域の課題解決を支援する会社で、第1弾として交通事業のサポートに取り組み、和泉市ではデマンド交通の運営支援なども行っています。このように、我々グループとしても地域課題の解決に民間の立場から貢献したいと考えております。本日もその思いで参加しておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。
事務局	続きまして、応募市民代表 長田晋治 様。
委員	私、ヤンマーのグループ会社に勤務しております、法務関係を担当しております長田と申します。よろしくお願ひいたします。ヤンマーはご存じの方も多いと思いますが、近年はブランドも少し変わり、海外市場が6割、日本国内が4割を占めています。大阪の会社として、SDGsの観点からも、気候変動や災害の多発、農業分野の課題、さらには少子化など、山積する社会課題にどう向き合うかを常に考えながら業務に取り組んでいます。私自身はリスクヘッジの観点から保険を担当しております。また少し変わった話になりますが、趣味で津軽三味線をやっておりまして、全国大会にも出場しています。その活動を通じて各地の施設や伝統文化に触れる機会も多く、地域ごとの良さを感じています。こうした経験を踏まえて、泉大津市の公共施設についても、伝統を重んじながら次世代に受け継いでいけるような改善の参考となる意見をお伝えできればと思い、応募させていただきました。本日からどうぞよろしくお願ひいたします。
事務局	続きまして、公募利用団体代表 矢野千寿 様。
委員	普段は北公民館でクラブ連絡会の役員を務めています。また、上條小学校ではコミュニティスクールの委員をしております。少しでも将

	来の泉大津が住みよく、楽しい町になればという思いで応募いたしました。本日からよろしくお願いいいたします。
事務局	<p>最後に、公募市民代表 森田幸雄 様ですが、事前に欠席のご連絡をいただいております。</p> <p>続きまして、事務局をご紹介させていただきます。</p> <p>泉大津市 虎間総務部長でございます。</p> <p>続きまして、細見資産活用課長でございます。</p> <p>続きまして、稻田資産活用課総括主査でございます。</p> <p>続きまして、本事業の委託業者であるランドブレイン株式会社の山田でございます。</p> <p>続きまして、島村でございます。</p> <p>最後に、本日、本委員会委員長の選出までの間、司会役を務めさせていただきます資産活用課課長補佐の辻川と申します。よろしくお願ひします。</p>

【3. 委員長・副委員長選出】

事務局	続きまして、本委員会の組織概要についてご説明をさせていただきます。本委員会は、泉大津市公共施設適正配置基本計画検討委員会設置要綱第1条に基づき、泉大津市公共施設適正配置基本計画について、必要な調査及び審査、検討をいただくものです。また、第2条に基づき、委員は、公共施設の維持、保全、配置その他の管理運営に関し学識経験を有する者、公募により選出された市民、及び公共施設利用団体の代表者を市長が委嘱するものです。また、本委員会の委員長、副委員長につきましては、第4条第1項の規定に基づき、委員皆様方より、本日、互選をいただくものとなっております。以上でご説明を終わらせていただきます。それでは、続きまして、次第の3、委員長、副委員長選出について、でございます。これは、委員の互選になっております。委員長の選任につきましてご意見がございますでしょうか。
委員	委員長についてですけれど、前回もこの公共施設の適正配置基本計画策定の時の委員長しておられました、古阪先生にお願いしたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。
委員一同	異議なし
委員	推薦があれば私がやりますが、新しい方が担われることも非常に重要なだと思います。その場合は、委員長が補佐していく形でもよいのではないでしょうか。スタートはそういう形で始めて、いずれは地元の方々が担っていくのが望ましいと思います。私自身も東京で活動してきましたが、国交省に対しても恐れずに取り組めたのは、まず地元をよく知っていたからだと思います。今日は名前をいただいたので務めますが、今後は徐々に皆さんの中で役割を担っていくことが、とても良い

	ことだと考えています。
委員一同	異議なし
事務局	異議なしのお声をいただきました。委員長には、古阪様にご就任いただきたいと存じます。続きまして副委員長ですが、委員長が欠席される時に職務を代行していただくことになります。副委員長の選任について、古阪委員長のご意見がございますでしょうか。
委員長	私は、皆さんどなたも立派な方だと思います。そのうえで大切なのは「誰が一番頑張ってくれるか」という意思だと思います。どなたか推薦される方はいらっしゃいませんか。
委員	岡先生、佐久間先生が、ご意見やご経験がたくさんあり、よろしいかと思います。
委員長	やはり内部の関係者よりも、外部の方が良いという観点では、ここにおられるお二人でも十分に対応いただけだと思います。関西大学の岡先生、和歌山大学の佐久間先生、このお二人にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。勿論、他の方が「頑張ってやってみよう」とおっしゃることもありますが、どの世界でもなかなか言えることではありません。やはり、よく頑張ってくださる方や、経験がある方、または改善していこうという意欲のある方を選ぶのも良いと思います。是非、こうした考え方も踏まえて、この会を進めていければと思います。
委員一同	異議なし
事務局	異議なしのお声を頂きました。副委員長には、岡委員、佐久間委員のご両名にご就任頂きたいと存じます。それでは、古阪委員長におかれましては、委員長席へ移動をお願いします。
委員長	ご協力のほどよろしくお願いします。
事務局	それでは、要綱第4条第2項の規定により、「委員長は、検討委員会を代表し、会議を総理する」と規定されておりますので、以後の会議の進行につきましては、古阪委員長にお任せいたします。

【4. 議題】

委員長	それでは、次第4議題に入らせていただきます。事務局よりご説明をお願いします。
事務局	議題（1）泉大津市公共施設適正配置基本計画（第3期）策定について (資料1について説明)
事務局	議題（2）泉大津市公共施設を取り巻く現状について (資料2について説明)
委員長	ありがとうございます。事務局からの説明について、委員の皆さんからご質問はありませんか。まず、この泉大津についてですが、こ

	これまでの説明には間違いはありません。しかし、日本全体の中で見たとき、特に外国人の動きや土地利用の問題なども踏まえる必要があります。ここは空港の近くに位置しているため、そうした点が大きな影響を及ぼす可能性があります。実際、北海道や京都では外国人が土地を購入している例もあります。東京や京都では外国人が人口の3~4割を占める場所もあり、私が新幹線に乗ると半分が外国人という状況もあります。そのような環境で仕事をしてきた経験からも、空港近隣の泉大津でも将来的に大きな影響が起こる可能性を考慮しておくべきだと思います。本日ここにお集まりの方々も含め、今後の議論ではこのような現実も踏まえつつ、意見を整理していくだければと思います。皆さんのご意見は整然としていて素晴らしいですが、現実の状況も意識していただきたいと思います。
副委員長	今回は1回目なので、思ったことをそのまま申し上げます。最後まで主張を見直すことなく続けるつもりはありませんが、皆さんのご意見を伺いながら進めたいと思っています。基本計画には「誰もが利用しやすく、誰もが集える公共施設」といった良い言葉が書かれていますが、基本方針を見ると「施設を縮小」「複合化」等といった内容が中心で、税金をあまり使わずに運営することに重きが置かれている印象です。サービスの質の向上についても触れられていますが、具体的に何をサービスとするのかは分かりにくいです。泉大津市は5キロ四方もない小さな街で、端から端まで歩いても1時間ほどです。この立地を考えた上での適正配置では、まず「地元の人が歩いて行ける範囲に必要な施設を置くこと」が最優先だと思います。ウォーカブルな街づくりを意識することが重要です。勿論、徒歩だけでなく車で行く必要がある施設もあります。そのため、施設を「歩いて行ける施設」と「車で行く施設」に振り分けて考えることが必要だと思います。現在、全市施設と地域施設に分けていますが、全市施設の中でも歩いて行ける子育て支援ルームなど、1か所なのか複数あるのかといった地元の事情が分かりにくいです。子育て中の親御さんたちは、歩いて行ける場所に支援施設を求めるニーズがありますので、こうした視点も踏まえて振り分け方を検討はどうかと思います。泉大津市は南部の自治体に比べてコンパクトで、車よりも徒歩利用がしやすい街です。その特徴を生かして、公共施設の配置計画を考えることが重要だと思います。
事務局	今おっしゃっていただいた通りでございまして、泉大津市はコンパクトな街ですので、小学校区単位で公共施設を検討していく運びです。小学校区であれば十分に歩いて行ける距離となりますので、これを基準として計画を進めて参ります。
副委員長	それが、計画の中に見えてくると、市民の人たちもわかりやすい。

	今ほとんど見ないので、見せ形を少し変えることができれば今の時代にあった形になるのかなと思います。
委員	最初なので確認なのですが、先ほど説明のあった基本計画・基本理念、そして 5 つの基本方針についてです。資料 1 の 3 ページに書かれている 5 項目は、引き続きこのまま使用するのでしょうか。それとも見直しも含まれるのでしょうか。最近では、施設を整備するにあたっては、省エネルギーなどの観点も一般的には考慮されると思いますが、資料を見る限り、そのような記載はあまり見受けられませんでした。コスト圧縮や管理のしやすさなど、考慮すべき事項は増えてきていると思います。また、先ほどの民間活用の話もありましたが、この基本方針はこのままの内容で進める予定でしょうか。
事務局	基本方針については、平成 26 年 12 月に定めており、これが現在の基本方針・基本理念となっています。その上で実施計画として基本計画を定めており、方針がぶれてしまうとゴールが見えなくなるため、基本方針はそのまま継続して生かしていく考えです。環境面についてのご意見もありましたが、基本計画【第 2 期】の 24 ページにある「地域特性を踏まえた取り組み」、(4) の「ゼロカーボンシティとしての取り組み」にも示されている通り、公共施設整備の際には環境面への配慮も行ってまいります。コスト縮減については、民間との連携や民間活用も基本方針として位置付けています。但し、現状では建設・整備コストの高騰が大きな課題であり、コストコントロールは難しい点として懸念しております。
委員長	これは日本の大きな問題です。少し詳しく申し上げると、今回の万博も含め、日本では発注者から設計・施工に至る下請けが、一次下請け、二次下請け、三次下請け、四次下請け、五次下請けと自由に連鎖してしまう構造になっています。これは大きな問題です。例えば中国では一次下請けが中心で、二次下請けも若干ある程度ですが、日本は四次下請けぐらいまで発生するのが一般的です。万博の事例でも、このような構造のために工事が止まったり、資金が適切に回らなかつたりする問題が出ています。そのため、公共事業の考え方を進めるにあたっては、発注者と設計者・施工者が連携して発注方法を見直すことが重要です。そうしないと、3~4 年程度で計画が崩れてしまうことが多く、このような現状を理解しておく必要があります。ここであまり詳しく述べることはできませんが、こうした課題も踏まえて進めていくべきだと思います。
委員	もう 1 点申し上げます。泉大津市でも立地適正化計画が令和 5 年に一度改定されていると思いますが、先ほど岡先生から指摘のありました「施設の行きやすさや集まりやすさ」、コンパクトシティとネットワークの観点が、この計画にも反映されてくるのではないかと

	思います。この計画を策定するにあたって、立地適正化計画との関連性などについて、どの程度、理解を進めながら計画を進めていくかという点も重要なと思います。
事務局	立地適正化計画について、泉大津市の総合計画に基づき策定されているもので、計画間の関連付けは差し支えありません。新たに公共施設を整備する際には、既存施設との複合化や多機能化などを検討として進める形で対応することになると思います。また、本市には津波の浸水区域もあるため、防災面を意識した整備も考慮していくことになります。特に、都市計画系の計画と相反するものではないことご理解いただければと思います。
委員長	この問題は泉大津市だけに限ったことではありません。建設業界には非常に固い業界構造があり、それをどう変えていくかが課題です。「変える」と言っても悪い意味ではなく、日本には建設関係の専門業者が51種類もあり、非常に複雑な構造になっています。他国ではせいぜい10~15程度ですので、世界的に見ても特異な状況です。しかし、この構造も徐々に変わりつつあります。特に泉大津のように空港が近い地域では、この関係性がさらに複雑になります。難しいというのは、良い意味での難しさで、地元関係者も苦労しながら取り組む必要があります。しかし逆に言えば、そうした環境は新しい挑戦や面白い取り組みを生む可能性もあります。また、国際化の面でも考慮が必要です。京都や東京では人口の半分ほどが外国人という状況もあり、空港が近い泉大津では、国際的なつながりも比較的容易に生まれる可能性があります。これまでのやり方だけでは対応できず、日本人だけの問題ではないという視点で、慎重に考える必要があります。
副委員長	教えていただきたいのが、財政です。あまり、こここの委員会とは関係ないかもしれません、資料2の3ページ「財政の現状」が令和2年にぐっと上がっていますが、これはどうしてですか。
事務局	定額給付によるものです。歳出の方も同様に増加しています。
副委員長	そういうことです。承知しました。ありがとうございます。
委員長	その他、ご質問が無いようですので、事務局より次の議題のご説明を、お願いします。
事務局	議題(3) 泉大津市公共施設に関する住民意向の把握について (資料3、資料4について説明)
委員長	ありがとうございました。ただいま事務局から説明されたことについて、委員の皆様からご質問等ありませんか。
副委員長	1つ目として、ワークショップについてです。前回の計画書でもワークショップの実施が掲載されていましたが、今回の実施はそれに比べて大幅に改善されるイメージでしょうか。前回は参加者が非常に

	少なく、市民 4 名とアンケート回答者 8 名の計 12 名で実施されていた状況でした。今回のワークショップは、その方法や参加者数などが改善されているのでしょうか。
事務局	前回は同じメンバーで 2 回開催しました。今回は異なる参加者で 2 回実施します。できるだけ多くの方にご参加いただく形で、南北の公民館で開催し、計 2 回のワークショップを予定しています。前回よりも参加者は増える見込みです。
副委員長	ワークショップについてですが、参加者には「楽しかった」と思って帰ってもらいたいと考えています。現在の内容では、改善点や欲しい機能を挙げることはできても、もう少し具体的なテーマで進めた方が参加者の満足度は高くなるのではないかと思います。単に不満を述べて終わる形にならないよう配慮が必要です。アンケートについても意見があります。まず、漢字が多くて読みづらく、途中で止めてしまう人が出そうです。同じ質問を 1 つずつ考えなければならないのも負担になります。特に問 4～問 6、問 10 の質問は難しく、問 5 は「知っているかどうか」を聞く必要はないのではないかと思います。PR として載せる意図があるなら別ですが、純粋にアンケートとしては省略してもよいでしょう。問 4 は内容がざっくりしすぎて、回答の使い道がわかりにくいです。回答が実際に活用できる形になっているかも確認が必要です。問 9 については、自由記述欄を設け、サービス内容に対する意見や不満・満足点を書きやすくすることが望ましいです。紙面の都合もあるとは思いますが、問 7 は面白い内容だと思います。2 つの取り組みや最新施設（例：シーパークのパークセンター）について、市民がどう評価しているかを聞くときは、昔からある施設と最近できた施設で聞き方を変えて良いのではないでしょうか。図書館についても同様で、古いものと新しいものの評価を区別して聞くことで、より具体的な意見が得られると思います。
事務局	今回いただいたご意見をもとに、アンケートで聞くべき項目と不要な項目の整理を行います。また、新旧の施設に関する質問の聞き方についても検討いたします。修正後、改めてご提示させていただく予定です。
副委員長	どうでしょう。市民の方としては少し難しいと思いますか。
委員	特に問 5 については、配置計画・方針とは何か、内容がわかりにくいと感じます。問 10 については、16 歳以上の方にお聞きしているが、高齢者も含めて幅広い世代にどのように対応するのかが、回答者にとってわかりにくいと思います。
事務局	アンケートについて、漢字が多いことや行間が狭い点については、再度レイアウトについて検討します。

副委員長	ウェブアンケートで回答すると印象変わるかもしれないですが、延々と続くという気はするでしょうね。
委員	2点あります。1つ目は、本委員会の資料は同封されないため、郵送でアンケートを確認する場合、情報がかなり少なく感じます。資料2の1枚目だけでも付けてアンケートを送った方がよいのではないかと思います。2つ目は、問8の選択についてです。もし資料を付けるのであれば、施設名だけ記入しておき、どこを1番利用したかを「丸・三角・バツ」で示すなど、本人の優先順位が分かる形にすると回答しやすくなると思います。あまり細かくデータを取ろうとすると、アンケートとして上手くいかないのではないかと感じました。
事務局	前回もアンケートを実施していますので、前回の結果と比較できればよいなというのが一番の思いです。ただ、文字は確かに多い印象があるので、レイアウト等について再度検討をします。アンケートのお願いの中で、市の現状、人口や財政についても検討したいと思います。
副委員長	まとめていただいているところでコメントしづらい部分もありますが、まず、子育てされている方かどうかという設問は、属性に関する問2あるいは問3の後あたりに入れればよいのではないかと思います。人口が減少していく中で、市としてどういう戦略を考えるかというときに、選んでもらえるかどうか、人口構成は減っても若い人に選択してもらえるかどうかという点が重要です。そのため、若い世代、特に子育て世代がどの施設をどのくらい満足して利用しているかを把握することは政策検討上、大事だと思います。20代・30代でクロス集計する方法や、お子さんの年齢などで聞く方法もあるかと思います。次に問7についてですが、私は少しピンと来ていません。問8を1枚にまとめた方が見栄えがすっきりすると思います。問7を右ページに移す、あるいは問9の後に自由記述を入れる中で、問7を残すかどうかは検討していただければと思います。レイアウト的にもったいない印象があります。また、ほぼ毎日利用する施設の満足度を1~5で評価する部分については、感覚的に点数として逆になる見え方となり、答える側が戸惑う可能性があります。数字を入れ替えるか、ABCなどにするなど工夫が必要です。さらに、利用しない理由を聞く部分では、「利用したことがない」の表現が漢字とひらがなで分かれているなど、視覚的に分かりづらい点があります。矢印や編みかけの表現など、全体的にもう少し工夫の余地があると感じます。
委員長	アンケートについては、多くのコメントが出ており、さまざまな改善点が示されています。個人的には、調査票はもう少し簡潔にした方が良いと考えています。特に若年層にとっては、細かい質問に答

	えるのは難しいことが想定されます。この点も踏まえ、本計画においては、委員の皆さんと一緒に議論を進めていくことが重要と考えます。
副委員長	問8についてですが、今の設問だと「利用が多い施設=良い施設」という印象になってしまいます。でも、市民としては、必ずしも頻繁に行かなくても「誇りに思う施設」「自慢したくなる施設」という考え方もあると思います。公共施設には、利用するかどうかだけでなく、存在自体を評価したり、誇りに思ったりする価値もあると思います。たとえば図書館やシーパスパークなど、身近にある施設が市民にとって象徴的であるかどうかを知ることも大切です。なので、問8の聞き方としては「公共施設として思い浮かぶものを3つ挙げてください」といった形で、利用の有無ではなく印象や象徴性を中心に聞く方法も考えられます。こうすることで、公共施設の価値や魅力を多面的に捉えられると思います。新しい図書館は、市民の皆さんのが自慢したいのではないかと思います。
委員長	本日の意見を踏まえて、事務局の方でアンケート調査票については再度精査していただければと思います。それでは、次第の5その他については、事務局の方へ進行をお返しいたします。
事務局	委員長、ありがとうございました。本日いただきました意見を基に、資料修正及び検討を進めてまいります。住民の意向調査につきましては、今回ご意見いただきましたので、修正、調整をいたしまして、9月の下旬に発送予定です。市民委員、団体委員に皆様に郵送されるかもしれませんので、その際はご回答いただきますようよろしくお願ひいたします。

【5. その他】

事務局	続きまして、次第の5. 次回委員会の日程調整について、ございます。第2回委員会について、本日ご欠席の委員の都合も確認し、後日、個別に日程調整を行い、第2回委員会開催日時をご案内します。
-----	--

【6. 閉会】

事務局	以上で、本日予定をしておりました議事が終了いたしました。委員の皆様、ご協力、ありがとうございました。本日の議事録につきましては、近日中に委員の皆様方へ送付させていただきますので、内容をご確認いただきますようお願いいたします。それでは、これを持ちまして、第1回泉大津市公共施設等適正配置基本計画検討委員会を終了いたします。本日はありがとうございました。
-----	---



会議の様子